

新潟労働局発表
令和5年11月30日（木）

令和5年11月30日

【照会先】

新潟労働局労働基準部監督課

監督課長

小永光邦彦

主任地方労働基準監察監督官

久川 禎之

電話 025-288-3503

報道関係者 各位

ベストプラクティス企業との意見交換について

～ 新潟労働局長が北越コーポレーション株式会社などと意見交換しました ～

新潟労働局（局長 西岡 邦昭）では、11月の過重労働解消キャンペーンの一環として、令和5年11月16日、労働局長が長時間労働の削減に向けた積極的な取組を行うベストプラクティス企業として北越コーポレーション株式会社（荷主事業者）、北越物流株式会社（荷主事業者）及び東部運送株式会社（運送事業者）と取組内容やその効果等について意見交換を行いました。

【意見交換日時】

令和5年11月16日（木）午前10時00分～午前11時00分

【意見交換企業】

荷主事業者

北越コーポレーション株式会社 新潟工場（新潟市東区）

事業内容 紙・パルプ製品製造業

出席者 取締役新潟工場長

荷主事業者

北越物流株式会社（新潟市東区）

事業内容 運送業・倉庫業

出席者 代表取締役社長

運送事業者

東部運送株式会社（新潟市秋葉区）

事業内容 運送業

出席者 代表取締役社長

【取組の概要】

- 出荷手配の前倒しを実施し、リードタイム（受注から出荷までの時間）を確保
- バース（荷物積み降ろし場）管理システムの導入による見える化
- 出勤時の血圧、体温測定等の全社管理
- 運賃や荷待ち時間に関する企業間協議

【取組の結果】

- ◎ 積込所要時間の短縮（2時間以内の割合） 44.6%（令和4年度）→73.8%（令和5年度）
- ◎ リフトオペレーター時間外労働減少 減少率68%（令和4年上期と令和5年上期を比較）

これらの取組や経験談は、これから新たに取組を始める職場に限らず、既に取り組を進め

ている職場にも大いに参考になると思われます。取組内容等の詳細は別紙のとおりです。

新潟労働局では、令和6年4月から運送業（自動車運転者）にも時間外労働の上限規制が適用されることを踏まえ、同社の長時間労働の削減に向けた積極的な取組事例を広く紹介し、県内企業の長時間労働の削減や過重労働解消に向けた気運の醸成を図っていきます。

◆ 取組のきっかけ

北越コーポレーション株式会社新潟工場は、紙の最大消費地である関東圏に非常に近い立地であり、トラック輸送を主軸として製品を顧客に直送するクイックデリバリーサービスを進めてきたが、昨今のトラックドライバーの人手不足、時間外労働上限規制適用による輸送力の不足といういわゆる 2024 年問題がクローズアップされ、抜本的な対策が講じられない場合は



2024 年度に 14%、2030 年度には 34%の輸送力が不足すると試算されている。これらの課題を早急に解決すべく、グループ会社と連携して対応を進めることとした。



【新潟労働局長】

この取組により、物流の効率化だけでなく、トラックドライバーの労働環境の改善効果もより一層高まるものと考えている。

北越物流株式会社は、荷主企業としての責任を果たすというところから取組を始める。従来から新潟工場はトラック荷待ち時間が長いという声はあったものの、デジタル化されていない記録からは、その実態を俯瞰的に調査・分析ができない状態であった。

◆ 荷待ち時間短縮に係る具体的な取組

○ リードタイムの確保

クイックデリバリーのサービスが売りであったが、やはりある程度のリードタイム（受注から出荷までの時間）がないと効率的な出荷業務ができないとして、手配情報の入手を一日前倒しすることとした。販売代理店へ要請したところ、サービスの転換に相当な圧力があつたが、今回の取組の趣旨をよく説明し了解を得た（緊急出荷用の車両も用意）。

積込日の前日まで受注していたことで、その出荷調整が当日までずれ込み、全体が遅れていたものを、リードタイムを確保することで、積込当日朝までに全てのトラックに対する積込明細が確定する体制を作り上げた。



【意見交換の様子】

○ バース管理システムを導入

汎用の荷物積卸し場（バース）管理システムソフトをカスタマイズして導入した。

これにより、積込みのトラック運転手が受付したら、バースの空き状況を確認し、積込可能なバースに割り当てる作業ができるようになった。

従来は、どのトラックが着たのか、容易に把握できず準備するにも後手になっていたが、システム導入で、車

の入構状況、各バースの積込状況がタブレット端末で即座に把握できるようになり、着たトラックに積み込む荷物を優先的に荷揃えできるようになった。

端末は外部倉庫を含め20か所以上に配置した。

トラックドライバーの呼出もタブレット端末上で操作することで行える。



【荷物積み降ろし場（バース）】



【バース管理システムの説明の様子】



【バース管理システムの画面（右上は端末）】

○ 運行管理委員会の設置等

東部運送株式会社では、運行管理委員会を月に1回開催して、事前に各営業所を回り拘束時間、労働時間が守られているか等をチェックした結果を総括した。手待ち時間が多い荷主事業者には、個別に訪問し改善を申し入れた。トラックドライバーの健康管理のため、出勤時、血圧・体温等を計測、クラウドで管理した上、異常が疑われるドライバーに受診勧奨した。

◆ 取組の成果・効果

○ 積込所要時間の短縮

積込所要時間について、取組目標の2時間以内である割合は、令和4年9月は44.6%であった

が、令和5年9月は、73.8%と改善している。東部運送株式会社のドライバーの拘束時間として1か月8～10時間短縮されている。

○ リフトオペレーターの時間外労働減少

効率的な積み込みができるようになったことで、現場リフトオペレーターの時間外労働が減少した。令和4年上期と令和5年上期で時間外労働が68%減少している。総労働時間では16.7%減少となる。

トラックドライバーの労働時間削減の取組ではあったが、社員の従業員の労働時間短縮に結び付けることができた。



【現場リフトオペレーターによる荷の積み込み】

◆ 今後の取組

○ DX化の推進

製品の仕掛かり状況を把握し、緊急出荷等に効率的に対応するため、製品の受注から出荷まで各部門のデータを見える化し、進捗状況を把握する取組を進めている。



【北越コーポレーション株式会社新潟工場長】

○ 倉庫集約による積込バースの削減

今後ますます人員確保が厳しい状況となることは明らかなため、バース間移動の時間ロスのミニマム化に取り組むことを検討している。



【北越物流株式会社代表取締役】

○ 長距離輸送への対応

JRコンテナの利用（モーダルシフト）や、中継輸送導入の可能性を踏まえて他社が行っている実証実験の情報収集等を行っていききたい。



【東部運送株式会社代表取締役】